

但馬の山地性のセミ 4 種の採集記録

永幡 嘉之

但馬の山地に生息しているセミのうち、興味深い分布を示す4種について、採集記録と分布についての知見を書きとめておきたい。

1. コエゾゼミ *Tibicen bihamatus*

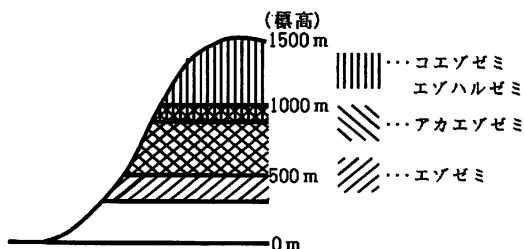
関宮町氷ノ山北尾根 (1♀, 24-VII-1991) (1♂, 31-VII-1992) (2♂♂, 29-VIII-1991) 温泉町扇ノ山小ツッコ (1♂, 6-VIII-1992)

本種とエゾハルゼミは、共に標高の高いブナ林に生息しており、分布はほぼ重なるようである (図1)。これまでに両種の生息を確認したのは氷ノ山と扇ノ山の山系のみであり、浜坂町本谷 (300~500m)、村岡町本谷奥 (550~650m)、小城 (600~800m) などの標高の低いブナ林では声も聞いたことがない。一般に「ブナ林の昆虫」と見なされる虫のなかには、ブナと一致する分布を示すものと、標高と一致する分布を示すものの2パターンがあるように思われるが、本種とエゾハルゼミは後者の例であると考えている。フジミドリシジミやヨコヤマヒゲナガカミキリ、ヒメハナカミキリ類、コリクワガタなどは前者の例と考えられ、但馬ではブナの分布に伴って低標高地にまで分布している。三川山や妙見・蘇武山系、床尾山は盛夏に稜線部を歩いたことがないが、ブナ林は広く存在する。標高が1000m以上の地域もあるが、本種とエゾハルゼミは分布しているのであろうか。

2. エゾゼミ *Tibicen japonicus*

浜坂町本谷 (1♂, 20-VIII-1993) 村岡町丸味 (2♂♂1♀, 16-VIII-1993) 相岡 (1♀, 9-VIII-1993) 村岡町本谷奥 (1♀, 23-VII-1993) (1♂1♀, 4-VIII-1993) (1♂4♀, 5-VIII-1993)

生息環境は、但馬では標高300m程度の丘陵地からブナ帯の下部、約1000m付近にかけての低山地である (図)。本属のなかでは最も分布が広い。海岸付近における分布状況は不明だが、浜坂町城山や居組、観音山などには生息していないようである。鳥取砂丘のマツ林で鳴声を聞いたことがあり (25-VIII-1995)、時には海岸付近にも現れることもあるが、恒常的に発生しているかどうかは不明。浜坂町や村岡町の標高の低い地域のブナ林ではコエゾゼミは見られず、本種のみが生息する。ソメイ



但馬におけるセミ4種の垂直分布のパターン

ヨシノ、ブナ、カラスザンショウ、アカマツ、スギなど各種の樹木に静止しているが、針葉樹を好む傾向がある。

3. アカエゾゼミ *Tibicen flammatus*

美方町備 (死骸前翅1枚, 27-VIII-1995) 美方町小代溪谷 (1♀, 22-VIII-1993, 文献1) で報告済 (1♀路上踏死体, 22-VIII-1995)

これまでの記録は温泉町上山高原の1例³⁾を除けば、美方町小代溪谷¹⁾、新屋²⁾、村岡町板仕野³⁾、大笹¹⁾と、瀬川山周辺に集中している。近年では鳥取県⁷⁾や岡山県⁸⁾でも相次いで採集されており、分布は広いようである。生息環境はブナ帯の下部およびその下方に広がるミズナラなどの落葉樹林で、垂直分布はコエゾゼミよりもやや下方を占め、エゾゼミとは重なるが本種の方がやや高い位置に偏るようである。記録が少ないのは、鳴声による他種との区別が困難なためと思われ、今後採集記録は増えていくことが予想される。なお、兵庫県版レッドデータブックでは絶滅危惧種に相当するAランクとして扱われているが⁶⁾、過去には多かったという報告もなく、選定理由の「特殊環境生息」という表現も適切ではないように思われる。

4. エゾハルゼミ *Terpnosia nigricosta*

関宮町氷ノ山大平頭 (1♂, 12-VII-1992)

コエゾゼミの項を参照。

参考文献

- 1) 上田尚志 (1994) エゾゼミ属 *Tibicen* 3 種の採集記録, IRATSUME 18: 63.

- 2) 森 和夫 (1994) 奥ハチ高原におけるアカエゾゼミの採集記録, きべりはむし22/1:13.
- 3) 近藤伸一 (1995) アカエゾゼミの採集記録, きべりはむし23/1:30.
- 4) 相坂耕作 (1995) 播磨の昆虫分布資料3 セミ分布資料, 遊蟲千年:80-82.
- 5) 兵庫県 (1995) 兵庫の貴重な自然
- 6) 近藤光宏 (1985) アカエゾゼミ蒜山でも記録される,

- すずむし120:12.
- 7) 竹内幸夫 (1985) アカエゾゼミの思い出, みちしるべ5:18.
 - 8) 田村昭夫 (1993) アカエゾゼミを採集, ゆらぎあ11:23.
 - 9) 奥谷慎一 (1976) 県下のセミ, 新・兵庫の自然, のじぎく文庫, 神戸.

扇ノ山のダイセンオサムシと ヒメオサムシについて (1)

永幡 嘉之

1. はじめに

扇ノ山 (1310m) は, 兵庫県と鳥取県の県境に位置する山である。この山に分布している小型のオサムシは, これまでダイセンオサムシであろうと考えてきたが, 鳥取市あるいは美方郡浜坂町周辺のダイセンオサムシは大部分が黒色であるのに対して, 扇ノ山では暗銅色の個体が大半を占めることが気にかかっていた。自分では積極的な調査もしないまま時が流れたが, 1995年1月に足立義弘氏より過去に採集された標本を譲り受けることができた。それらの3頭の明るい銅色の個体はヒメオサムシであった。ヒメオサムシの分布は氷ノ山付近まで思い込んでいたため, 扇ノ山でヒメオサムシが採集されたことは意外であった。一方, 麓の肥前畑で採集したものはダイセンオサムシであった。

狭い地域に両種が分布していることが判明したので, 1995年は正確な分布を知りたいと考え, 3度にわたってトラップを設置した。結果はあまり芳しいものではなかったが, いくつかの地点でいずれかの種を採集することができた。まだ分布の接点, あるいは混棲場所の有無などは不明のままだが, これまでに判明した知見をまとめて今後の調査の踏み台にしたいと考えたので, ここに報告することにした。

報告に先立ち, 貴重な標本を貸与あるいは提供して頂いた谷角素彦氏 (茨木市), 足立義弘氏 (京都市), 黒井和之氏 (温泉町), また調査に協力して頂き記録の提供を受けた川端知江氏 (鳥取市) に厚く御礼申し上げる。

2. 採集記録

鳥取県側の1例以外はすべて兵庫県美方郡温泉町であるので省略した。

ダイセンオサムシ *Carabus daisen*

蒲生峠 alt. 340m, 1♂, 14-VI-1986, 足立.

海上 alt. 400m, 1♀, 14-VI-1986, 黒井.

岸田花口 alt. 360m, 1♀, 22-V-1992, 永幡.

岸田霧ヶ滝入り口 alt. 420m, 1♀, 30-V-1992, 永幡.

岸田菅原 alt. 500m, 1♂1♀, 15-VI-1986, 黒井; 1♀, 4-VII-1986, 黒井.

岸田肥前畑 alt. 580m, 1♂, 23-V-1994, 永幡.

扇ノ山畑ヶ平 (高原上) alt. 980m, 1♂, 2-VII-1995, 永幡.

扇ノ山上山高原 alt. 920m, 1♀, 2-VII-1995, 永幡.

扇ノ山小ヅッコ alt. 1000~1100m, 1♂, 2-VI-1984, 谷角; 1♀, 1-VII-1984, 谷角; 1♀, 15-IX-1984, 谷角; 1♂, 26-VII-1986, 山本一幸.

小ヅッコ (小ヅッコ小屋付近) alt. 1080m, 2♀♀, 7-VI-1995, 川端.

小ヅッコ (雨滝からの登山道との合流点) alt. 1100m, 2♀♀, 2-VII-1995, 永幡.

小ヅッコ (大石からの登山道との合流点) alt. 1160m, 1♂2♀♀, 2-VII-1995, 永幡.

鳥取県岩美郡国府町雨滝 alt. 600m, 1♀, 6-VI-1995, 川端.